

令和3年度 第70回山形県自作視聴覚教材コンクール

全体講評【社会教育部門】

全体を通じて、郷土の偉人や食の魅力、歴史、言い伝え等地域の特色や良さを表現した作品が多く、郷土愛を感じられるコンクールだった。地域の歴史を守り伝えたいという願いから、制作者の興味関心に至るまで作品意図もバラエティに富み、いずれも甲乙つけがたいものであった。

今回は紙芝居の出品数が大変多かった。特に、ストーリーの硬質な印象を柔らかな絵で包み込んだような作品が目立ち、好感が持てる。

デジタルコンテンツ作品に関しては、技術的に非常に優れた作品と、演劇などの記録映像をそのまま視聴覚教材にしている作品があり、同じ物差しで評価することの難しさを感じざるを得ない。演劇作品としてはすばらしいが、視聴覚教材としての二次利用は厳しいものがある。記録用映像の転用ではなく、最初から視聴覚教材コンクールの出品について見直し、複数カメラ、録音の吟味などが必要であると感じた

説明、ストーリーと映像、絵などが一致することにより、聞き手、受け手、相手の心に響く作品になると思う。説明的内容の多いもの、逆に映像、画像、絵の少ないものなどはやはり評価が下がる傾向がある。相手意識を強く持ち、制作者の意図がよりよく伝わる物語、ストーリー展開と映像、画像、絵の作品作りに取り組んでいただきたい。

また、これからの社会の課題について考えさせられるような作品を作成していただくことを期待する。